

中国陸軍の海改工程

漢和防務評論 20161002 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

6月にパリで開催された国際防衛装備展示会”ユーロサトリ 2016”で、中国は戦車、歩兵戦闘車、戦車橋、渡河、上陸作戦用装備品を録画展示しました。その内容を漢和が記事にしましたので紹介します。

中央軍事委員会は、中国陸軍の装甲車両が水際で円滑に運用できるよう求め、陸軍はこれを”海改工程”と称して、86型歩兵戦闘車、90型歩兵戦闘車を改修しました。また台湾を念頭に置いた、渡河、着上陸作戦のための各種施策を推進しています。

KDR 平可夫パリ特電：

VT-4型輸出向け主力戦車、VN-1型8×8装輪歩兵戦闘車の録画面面を見ると、相当強靱な水上機動性があるようだ。これらは、水深1.2M乃至5Mの河川の渡渉能力がある。中国北方工業公司(NORINCO)は、装甲車両の水際での移動速度を高度に重視していた。消息筋によると、“新时期の軍事闘争準備”の必然的な要求であり、中央軍事委員会は、主要な陸軍装甲車両に対して、河川及び江湖水際での行動能力を要求しているという。内部ではこれを“海改工程”と称している。このため中国陸軍は、86型歩兵戦闘車及び90型歩兵戦闘車を改良した。

中国陸軍でVN-1の大量装備が始まっている。これはZBL-08と称される。録画面面を見ると、チベットに配備されているようだ。渡海作戦の画面は何度も映され、時速は8KMであった。

渡海上陸作戦、沿岸への装甲兵器接岸、淡水河の渡河作戦等々の需要に対応するため、兵器工業集団は、2010年以来、大量の渡海作戦支援装備を開発した。6月にパリで開催された国際防衛装備展示会“ユーロサトリ 2016”では、録画を展示した。これを“島嶼...装備”と称している。これらの映像は撮影禁止であった。米国記者が撮影しようとして直ちに制止された。

映像中に新型の装輪式21M、51M浮橋及び60トン対応橋梁が展示され、それぞれ“島嶼用装備.....”であると称していた。録画面面を見る限りこれらの浮

橋の架設速度は相当速いように見えた。この映像は、1980年代のワルシャワ条約加盟国の大規模演習の映像を連想させた。多数の設備は、自動化、機械化されていた。例えば、60トン対応の機械化橋は、重量30トンで橋面の幅は3.8mである。単橋面(SINGLE SPAN)の起立(ELECTION)時間は12分、長さは15M、映像では5両の架橋車が5個の橋面を携帯し、60分で75Mの長さの橋面を起立させた。橋は、それぞれ7名で操作していた。

近年来の中国軍の演習を見ると、内陸所在の集団軍の演習であっても、貯水ダムを利用し、各種浮橋の架設訓練を行っていた。

NORINCOの映像は、60トン対応浮橋の架設過程を展示した。これは18分しか掛からなかった。橋梁の長さは、109Mに達し、幅は6.5Mであった。20トン級の軽型浮橋(COMPANYING BRIDGE)の架設画面では架設速度が相当速く、橋の長さ22.5M、架設速度は10分であった。

また映像では、機動用ヘリコプターパッドの架設過程を展示した。これは野戦用のヘリ離着陸場である。この設備の開発は、目的が明確である。台湾には多くのゴルフ場がある。近年来の中国陸軍の演習では、すでに一度ならずヘリボーン作戦演習が行われている。

またGLM-122と称する水陸両用海岸工程車が出現した。これは、海岸渚にて装甲車両の通り道(TRACK WAY)を開設するのに用いられる。この工程車は、重量が25トン、水陸両用戦闘車に直接随伴して海上から上陸し、5乃至15分間で幅4M、長さ35Mの装甲車の通り道を開設する。そして重量40トンの装甲車両を通過させることができる。

以上